

元中学校長 金城佳隆先生を講師に「クラブ」三線 スタート!

教育研究員の研修の一つである「クラブ」。11月13日(木)に、元中学校長の金城佳隆先生を講師に、「三線」のクラブを行いました。5名の教育研究員は、和やかな雰囲気の中、沖縄文化にふれる楽しさを味わっていました。

クラブ三線の内容

- 講師紹介
- 教育研究員の紹介
- 沖縄の文化について
  - ・沖縄の方言：「ことばは文化」であり、方言を沖縄の文化として伝えて欲しい
  - ・琉歌：8・8・8・6の30音から出来ている。
  - ・方言の「三母音の原則」：共通語のアイウエオは、沖縄ではアイウイウになる。
  - ・組踊：玉城朝薫が創始。冊封使をもてなす為に上演



写真1 三線(クラブ)の様子



写真2 講師の金城佳隆先生と教育研究員

研究員の感想

沖縄の文化や方言についてのお話を聞くことが出来ました。方言のことわざや年中行事に関する事も聞けて楽しかったです。組踊りについてのお話を聞いて、所外研修の組踊りの鑑賞にも期待を感じました。そんなお話の中から、視野を広げる必要性を感じ、自分自身の感性を磨くことも大切だと思いました。(稲嶺あゆみ)

金城佳隆先生に沖縄方言や琉歌などについて教えていただきました。沖縄方言が衰退しているといわれる中、実際に私も沖縄の方言をほとんど知らないことに気づかされました。話の中で『おきなわ方言入門』という子どもでも方言の意味が分かるように書かれている本があると紹介していたので、探してみたいと思います。また琉歌が約4千もあることを知り驚きました。始めは口から口へ伝えられていたので記録はないということですが、実際はもっとあるのだらうと思いました。これからのクラブ三線の活動を通して、沖縄の文化にもっと興味を持ち、大事にしていきたいです。(安座名有里)

クラブ三線では、金城佳隆先生に沖縄の文化の大切さを教わりました。教員時代には、沖縄の文化(方言・空手など)に対して疎かったこと。沖縄の文化を教育の中に入れることは必要なこと。を話されていました。東風平中学校校長時代には、総合学習の一環で組踊り「身替忠女」を毎年上演して、沖縄の文化を学ぶ機会を設けている話を聞きました。小学校では、三線クラブ、しまくとぅばクラブなどがありますが、総合学習の中でもできることを考えてみたいと思いました。方言クイズは、なかなか答えが出てきませんでした。祖父母や親と生活しているわけではないので、方言を聞く機会が少ないことや自分自身、方言に関心が低いことも原因だと思います。子ども達に沖縄の文化を伝えるためにも方言に触れる機会を作りたいと思いました。沖縄について考える貴重な時間になりました。(勢理客貴之)

クラブ三線では、今日は沖縄の文化について講話をして頂きました。私は方言がほとんどできないのですが、沢山の方言を教えてくださいました。沖縄の文化についての不勉強さを改めて感じました。金城佳隆先生が最後におっしゃった言葉で「学力向上はいいことだが、そればかりに捕らわれてはいけない。義務教育では心も育てましょう。」という言葉をしっかり受け止めたかったです。(比嘉俊雄)

金城佳隆先生のお話は、興味深い内容でした。個人の趣味に留まらず、私たちにその知識を分けて頂けるのは、有難いことです。楽器、方言、歌、踊り。それらを大まかに説明して頂きました。味のある話し方で、時々方言を話されましたが、もっと方言を聞きたかったです。今日は沖縄の文化を知る上で、貴重なお話を聞かせて頂きました。うちなーんちゅとしてのアイデンティティを自覚する機会となって有意義な時間を過ごせました。(古謝栄子)